

こうなん災害時協働隊



港区災害時協力事業所

●こうなん災害時協働隊とは…大地震が発生した時に、地域の復旧活動への支援や、避難所への物資・技術の提供など、地域の助けになればと声をあげてくれた区内事業所のことです。2024年12月の発足から今年の2月末日時点で175社の登録があります。

最新の登録事業所はこちら▶



のほりばがステッカーが目印です!!



こうなん災害時協働隊 × 地域住民 × 行政 **地域防災拠点における協働隊との連携訓練で「協働による地域づくり」が加速しています!!**

連携訓練 事例① 小梅商事(有)生コンクリート港南工場(最戸1丁目) 水道インフラ損傷に備え、ミキサー車による補水



生コンクリートミキサー車から簡易水槽に水を補水
簡易水槽に貯まった水を使った放水訓練

大規模地震などで、水道インフラが損傷。過去の震災を振り返ってみても、地域防災拠点などでは水が流せないことで、トイレが使用できないという課題もあった。
そこで、昨年10月18日、桜岡小拠点運営訓練で小梅商事(有)が区役所、消防と連携し、水の運搬や補水、放水訓練を実施した。

小梅商事は生コンクリートミキサー車を数多く保有している。協働隊として、災害時にはミキサー車による生活用水の搬送支援を想定。3t車で最大1,600ℓの水が運べ、約5分で保水が完了するという。訓練では同社のミキサー車で桜岡小に水を搬送し、その後、簡易水槽に貯めた水を使い、港南消防団第二分団と消防隊が火災を想定した放水訓練も同時に行った。

拠点運営委員からは「事業所が参加することで横のつながりが強くなる」との声があった。



生コンクリートミキサー車

連携訓練 事例② 網宮島運輸(巻下1丁目) 要援護者を防災拠点から福祉避難所へ搬送



宮島運輸が保有するマイクロバスを使用し、要援護者らを搬送

発災時の要援護者を搬送する想定で、昨年10月11日に巻下中学校拠点運営訓練で、(株)宮島運輸が、区役所、ケアプラザと連携し、「要援護者搬送訓練」を行った。

運送業者の宮島運輸は、それぞれの車両に応じた輸送事業が強み。同社は、物資・負傷者等の運送・搬送、場所の提供、障害物の撤去・片付けなどの協力を想定している。同社が保有するマイクロバスを使用し、「協働隊=拠点=区役所=ケアプラザ」が連携し、無線での連絡を経て要援護者を巻下中から、福祉避難所となる港南中央地域ケアプラザへ搬送する取り組みを実施した。当日は、小雨が降る中、同社の秋月政人部長が運転者となり、発災時を想定し、近隣住民と協力しながら訓練を行った。拠点運営委員長の柿沼恵子さんは「近隣事業者との搬送訓練は、非常に心強く感じた」と連携訓練を振り返った。



バス搬送の車内

炭たまや 港南台店(港南台6丁目)・野庭店(野庭町) 「駐車場の解放などで協力を」

スーパーマーケットを運営する炭たまやは、区内では港南台店と野庭店を出店している。港南台店は港南台第一中、野庭店が野庭すずかけ小の拠点運営訓練にそれぞれ参加した。災害時の可能な支援として、両店では場所の提供や駐車場の解放を想定している。

また、同社・販売部の増田部長は「港南区からの要請があれば、食料品や簡易トイレ、水、防災備品等の提供も可能です」と話す。各店舗にはトイレもあり、水道が使えれば使用も可能だ。

「災害時の簡易トイレや水、食料品などの提供も可能です」

ミネ工業株式会社(日野中央2丁目) 重機でがれき撤去に取り組む

日野中央で解体業を営むミネ工業は、吉原小の拠点運営訓練に外国人技能実習生と参加した。浅井代表取締役は「技能実習生には、もしもの時にここへ避難するということを知ってもらいたい」と、「近隣の人には、彼らも地域の一員として認識してもらいたい」とその意図を語る。災害時には重機によるがれきの撤去や、若い外国人技能実習生らが、力仕事を従事することを想定している。

また、社屋は耐震構造を採用。10人程度が3日間過ごせる食料などを備蓄し、社屋を一時的な避難場所として開放することも視野に入れている。

浅井 英明 代表取締役

「何かあれば丈夫な社屋に駆け込んでください」

同慶会 特養 芙蓉苑(下永谷4丁目) 福祉車両での移動、避難所を運営

福祉避難所にも指定されている下永谷の特別養護老人ホーム芙蓉苑。福祉避難所とは、地域防災拠点(避難所)での生活が困難と判断された要援護者を受け入れる施設を指す。芙蓉苑は保有する福祉車両で、地域防災拠点から同施設へ要援護者を安全に移送することが可能だ。

同施設は日限山小の拠点運営訓練で車いすの使い方を講座を実施。家族での参加も多く、使用方法を真剣に学んだ。「[災害時に助け合えるように]地域と共に準備したい」と小穴施設長は語った。

小穴 健司 施設長

「福祉避難所として最大80人を受け入れることが可能です」

モリスゲビル株式会社(下永谷5丁目) ペットの一時的な預け場所に

環状2号線沿いにあるビルの管理をしているモリスゲビル(株)。拠点運営訓練は上永谷中に参加した。ビル内にある「モリスゲペットクリニック」を運営する同社は、災害時に同院でペットの一時的な預かりを想定。加えて、ペットフードの備蓄を生かし、周辺避難所への提供も可能だという。

さらに「ビル内のゴルフの屋内練習場や屋上のドッグランを地域住民の方々に開放することも可能です」と森代表取締役は話す。

森 裕司 代表取締役

「10頭ほどの受け入れが可能です」

拠点運営訓練で地域の交流が深まりました!!

※下記8拠点以外でも、数多くの港南区災害時協力事業所(こうなん災害時協働隊)が訓練に参加し、近隣住民と交流を深めました。

永谷小

参加協働隊: 成仁会、長田病院、同慶会、特養 サンバレー、同慶会、特養 芙蓉苑、同慶会、下永谷地域ケアプラザ、創価学会、港南文化会館

吉原小

参加協働隊: ミネ工業 興業メッキ工場、日産神奈川販売南日野店、港南日野店

巻下中

参加協働隊: 網宮島運輸、岡本歯科医院、横浜市福祉サービス協会、港南中央地域ケアプラザ

桜岡小

参加協働隊: 熊山野井、小梅商事(有)、NPO法人コドモト

日野南小

参加協働隊: ささき桜病院、ティア港南台、そよかぜの丘、日野南地域ケアプラザ、コミュニティカフェ icoccaのみなみ

丸山台中

参加協働隊: 東京ガスエコモビル、YOU SHOP マルヤス港南、(有)フアーマー丸山台、同慶会 フェニックス丸山台

永野小

参加協働隊: 聖福医院、菊伊東電機、菊野駅、真昌院、ゆたか薬局、上永谷店、同慶会、上永谷駅前地域ケアプラザ

港南台第一小

参加協働隊: 関キクシマ、裕徳会、港南台病院(有)福科クリニック店、同慶会、赤い星保健看護